

12月1日は世界エイズデー

2020年世界エイズデーキャンペーン

テーマ「知ってる!? HIVとエイズの違い」

2020年は、岐阜市内外の中学、高校、大学、専門学校8校がレッドリボンフラッグ作成にご参加いただきました。それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。

レッドリボンフラッグは、11月16日～12月10日まで、神田町5丁目の交差点付近に展示しました。



〈梅林中学校〉

エイズの人たちに対して偏見を持っていたり差別をする人は減ってはいるけれど、なくなっているわけではない。「自分とは関係ない」など思っている人もいます。自分には関係ないとは思わず、みんなで理解し、支え助け合うことで、エイズの人たちへの偏見や差別をなくしていきたいと思い、ハートの地球に一人一人の思いをこめ、地球を大きな1つのリボンでつつみこむようなイメージで作りました。これを見た人が少しでも考え方をかえ、エイズやHIV感染者の人たちへの偏見、差別、いじめがなくなることを願っています。

〈長森南中学校〉

キャンペーンテーマ「知ってる!? HIVとエイズの違い」について保体委員長から全校放送でエイズについて、レッドリボンフラッグについての説明をしました。一人でも多くの方がHIV/エイズを自分のこととして考え、HIVとエイズの違いをはじめ、検査や治療、支援などHIV/エイズに関する正しい知識の普及を通じ、差別・偏見の解消につなげていけるよう、全校生徒が温かい思いでシンボルマークのレッドリボンをつつみこんでいます。

〈厚見学園〉

厚見小・中学校

厚見中学校の生徒がデザインし、色付けをしたフラッグに、厚見小学校の児童がレッドリボンを付けました。世界中の人々が、仲良く手をつなぎ、レッドリボンで暖かく包まれるイメージを表しました。エイズで苦しんでいる人々を差別しない、平和な世界になるようにと願っています。



〈済美高等学校〉

エイズについての正しい知識を世界中のみんなが持てたら偏見も自然となくなるので、そんな願いを込め、日本を中心に大きな地球をえがきました。

また、エイズで苦しんでいる人に寄り添い、ともに励まし合いながら明るい世界になるようにと願いを込めて、大きな手で地球を包み込みました。一人ひとりが作ったエイズリボンの思い1つ1つを、明るい未来と希望につながるようにと重ね合わせてたくさんの花にして表現をしました。



〈岐阜保健大学 看護学部〉

若者にHIVやエイズについて知ってもらいたいという思いから、流行のタイダイ染めを用いて表現してみました。HIVとエイズの違いは青と赤のように違うという意味も込めています。見た目にインパクトを持たせたので、これを見て多くの人がHIVとエイズに関して興味や関心を持ってくれたら嬉しいです。



〈岐阜市医師会看護学校〉

治療法の進歩により、HIVの陽性者の予後が改善され、エイズの発症を防ぐことができるようになり「正しい知識を得る」ことが重要だと思っています。知識を得ることで検査の受診率を上げ、偏見や差別もなくしていきたいと真に考えています。私達は岐阜市医師会看護学校で学んでいます。医療従事者であることや、地域で生活していることから「未来を自分らしく過ごし続けるため」に啓蒙活動を行う方法としてこの作品を作りました。



〈岐阜市立女子短期大学 美術部〉

「知っている!? HIVとエイズの違い」というテーマをきいたとき、10人にも満たない美術部内でさえ「HIVって?」「エイズとは別ものなの?」という声があがりました。義務教育を通して、なんとなく気をつけなければいけないことや差別、偏見があるのだということは知っていても、具体的なことはわかっていない人が多かったのです。フラッグアートを通じて一人でも多くの方が疑問を持ち、正しい知識を得るきっかけをつくれたらという思いを込めて制作しました。

〈岐阜市立看護専門学校〉

今年のフラッグのデザインは6本のカラフルなバラにしました。バラをいろいろな色をめることで、それぞれに違いをもった人々を表し、バラを6本にすることで「お互いに敬い、愛し、分かち合いましょう」という意味をもたせました。

そして、このデザインには「互いの違いを理解し、尊重することで共に生活することができる」というメッセージを込めました。

エイズとは何かを知ることができるよう、正しい知識をつけ、差別をなくすことを呼びかけていきたいです。